

企業局経営戦略の進捗状況（令和2年度決算確定値）

1 令和2年度投資・財政計画の実績評価（令和2年度計画値と実績値の比較による評価）

（1）水道用水供給事業（2ページ）

- 供給水量の微増が続くなど、計画約14億円に対し、約32億円の純利益を確保している。今後、人口の減少は進むものの、水道普及率の向上や市町村等における自己水源から県水への転換による供給水量の増加により、継続して純利益を確保していく。
- 借入金残高は、新規借り入れの抑制に努めており、約468億円と、計画約543億円に対し、約75億円下回っている。
- 純利益を確保しながら、浄水場の更新、管路の耐震化などを行っており、経営状況は良好である。

（2）工業用水道事業（2ページ）

- ユーザー企業との契約水量を一定量確保するなど、計画約26億円に対し、約28億円の純利益を確保している。
- 借入金残高は、新規借入金の抑制に努めており、約404億円と、計画約438億円に対し、約34億円下回っている。
- 純利益を確保しながら、浄水場の更新、管路の耐震化などを行っており、経営状況は良好である。

（3）地域振興事業（3ページ）

- 土地リース料などで収益を確保しつつ維持管理費を抑え、計画18百万円に対し、47百万円の純利益を確保している。
- 新規借入金はないが、借入金残高は13億円ある。阿見東部工業団地のリース区画を分譲し返済する見込み。
- 純利益を確保するなど、経営状況は良好である。

2 数値目標の達成状況

（1）水道用水供給事業（4～6ページ）

- 総収益対総費用率は、供給水量の微増が続き100%以上を達成している。
- 施設の改築・更新は、新治浄水場を廃止するために事業費ベースでの進捗は低いですが、計画どおり6浄水場について完了又は事業に着手している。
- 管路耐震化は、整備費用の高騰や布設位置の見直しなどが発生しているが、概ね計画どおりに進捗している。

（2）工業用水道事業（7～8ページ）

- 総収益対総費用率は、引き続き100%以上を達成している。
- 施設の改築・更新は、新治浄水場を廃止するために事業費ベースでの進捗は低いですが、計画どおり6浄水場について完了又は事業に着手している。
- 管路耐震化は、不断水工事や支障移設等の増加により整備費用の高騰や計画の見直しなどが生じ、目標値には至っていないものの耐震化の効果は発現できていることから評価できる。

（3）地域振興事業（9ページ）

- これまで企業局が造成した阿見東部工業団地、江戸崎工業団地、つくば明野北部(田宿地区)工業団地の全てにおいて企業立地率100%を達成した。

令和2年度 投資・財政計画実績

水道用水供給事業

(単位：百万円)

項目		R2計画(A)	R2実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	17,990	18,782	792	104.4%
	料金収入	15,875	16,043	168	101.1%
	他会計補助金	128	128	0	100.0%
	長期前受金戻入等	1,987	2,611	624	131.4%
	費用	16,553	15,492	△ 1,061	93.6%
	維持管理費等	8,085	7,591	△ 494	93.9%
	減価償却費等	7,714	7,251	△ 463	94.0%
	支払利息	754	650	△ 104	86.2%
純利益	1,437	3,290	1,853	228.9%	
利益処分(減債・建設改良積立)		1,437	3,290	1,853	228.9%
繰越利益剰余金		0	0	0	
資本的 収 支	収入	5,725	3,404	△ 2,321	59.5%
	国庫補助金	1,437	1,407	△ 30	97.9%
	企業債	3,136	732	△ 2,404	23.3%
	他会計補助金等	965	1,166	201	120.8%
	他会計借入金	187	99	△ 88	52.9%
	支出	14,663	11,582	△ 3,081	79.0%
	建設改良費	11,642	7,244	△ 4,398	62.2%
	償還金等	3,021	4,338	1317	143.6%
差引	△ 8,937	△ 8,178	760	91.5%	
借入金残高		54,319	46,804	△ 7,515	86.2%
うち企業債残高		49,349	43,198	△ 6,151	87.5%

工業用水道事業

(単位：百万円)

項目		R2計画(A)	R2実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	12,665	12,604	△ 61	99.5%
	料金収入	11,288	11,146	△ 142	98.7%
	長期前受金戻入等	1,377	1,458	81	105.9%
	費用	10,043	9,752	△ 291	97.1%
	維持管理費等	4,135	4,215	80	101.9%
	減価償却費	5,572	5,304	△ 268	95.2%
	支払利息	336	233	△ 103	69.3%
純利益	2,622	2,852	230	108.8%	
利益処分(減債・建設改良積立)		2,622	2,852	230	108.8%
繰越利益剰余金		0	0	0	
資本的 収 支	収入	3,126	1,971	△ 1,155	63.1%
	国庫補助金	540	637	97	118.0%
	企業債	2,286	1,126	△ 1,160	49.3%
	その他	300	208	△ 92	69.3%
	支出	10,300	8,709	△ 1,591	84.6%
	建設改良費	5,188	3,984	△ 1,204	76.8%
	償還金等	5,112	4,725	△ 387	92.4%
差引	△ 7,174	△ 6,737	437	93.9%	
借入金残高		43,811	40,394	△ 3,417	92.2%
うち企業債残高		24,597	21,181	△ 3,416	86.1%

令和2年度 投資・財政計画実績

格納庫事業

(単位：百万円)

項 目		R2計画(A)	R2実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	39	38	△ 1	97.4%
	料金収入	39	38	△ 1	97.4%
	費用	26	31	5	119.2%
	維持管理費等	10	15	5	150.0%
	減価償却費	15	16	1	106.7%
	支払利息	1	0	△ 1	0.0%
	純利益	13	7	△ 6	53.8%
利益処分（減債・建設改良積立）		13	0	△ 13	0.0%
繰越利益剰余金		0	12	12	
資本的 収 支	収入	0	0	0	
	支出	114	2	△ 112	1.8%
	修繕工事費	0	2	2	
	償還金	114	0	△ 114	0.0%
	差引	△ 114	△ 2	112	1.8%
借入金残高		0	0	0	
うち企業債残高		0	0	0	

土地造成事業

(単位：百万円)

項 目		R2計画(A)	R2実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	56	57	1	101.8%
	土地リース収入	56	57	1	101.8%
	分譲収入	0	0	0	
	費用	51	17	△ 34	33.3%
	維持管理費等	50	17	△ 33	34.0%
	土地売却原価	0	0	0	
	支払利息	1	0	△ 1	0.0%
純利益	5	40	35	800.0%	
利益処分（土地造成積立）		5	40	35	800.0%
繰越利益剰余金		0	0	0	
資本的 収 支	収入	114	0	△ 114	0.0%
	企業債等	114	0	△ 114	0.0%
	支出	0	10	10	
	建設改良費	0	10	10	
	償還金等	0	0	0	
	差引	114	△ 10	△ 124	-8.8%
借入金残高		1,500	1,300	△ 200	86.7%
うち企業債残高		0	0	0	

経営戦略における数値目標の令和2年度実績値

1 水道用水供給事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

【評価の凡例】 ◎R6までに確実に達成
 ○R6までに達成の見込み
 △R6までに達成できない可能性がある

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
1	総収益対総費用率 (%)	費用が収益によってどの程度賄われているかを示す	125.6	120.2	118.2	114.3	121.2	毎年100以上	◎ 供給水量の微増が続いており、総収益で総費用を賄えている状況にある。今後、人口の減少は進むものの、水道普及率の向上や市町村等における自己水源から県水への転換による供給水量の増加により、継続して目標値の達成が見込まれる。
2	営業収益対営業費用比率 (%)	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す	117.6	110.9	109.2	109.4	110.4	毎年100以上	◎ 供給水量の微増が続いており、営業収益で営業費用を賄えている状況にある。今後、人口の減少は進むものの、水道普及率の向上や市町村等における自己水源から県水への転換による供給水量の増加により、継続して目標値の達成が見込まれる。
3	借入金残高 (億円)	借入金残高 (負債) の状況	530	515	504	502	468	463	○ 資金状況をみながら、新規借入金の抑制に努めていることから、年々減少している。今後は、市町村への県水供給の増量に必要な送水施設整備費の増大などにより、借入金の増加が見込まれる。
4	粉末活性炭使用量 (t)	オゾン処理導入による使用量削減	270	400	300	300	350	100	△ 利根川流域において臭気原因物質濃度が高かった影響で、粉末活性炭使用量が増加した。
5	粒状活性炭の再生量 (m ³) [霞ヶ浦浄水場]	吸着活性炭から生物活性炭に移行することによる活性炭寿命の延命	3,400	2,900	3,200	2,900	3,600	1,200	△ 霞ヶ浦(西浦)における臭気原因物質(2-MIB)濃度が、5~6月にかけてこれまでになく高濃度となり、粒状活性炭切替により対応を行ったため再生量が増加した。
6	水道普及率 (%)	水道利用者の増	94.0	94.4	94.6	94.7	94.9	95.4	○ 水道普及率は、着実に向上しており、このまま推移すれば目標を達成できる見込み。 ※R2実績値は、R2年3月末時点の水道普及率として公表された値

【基本目標2】 安全で安定した水の供給

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
7	施設の改築・更新の進捗状況(%) [事業費ベース]	機能維持に関する建設改良投資の進捗状況(施設更新事業) 【上工水】	27.3 (30.6)	35.7	43.9	53.7	54.6	100	○ 施設の適正配置等により新治・涸沼川浄水場の更新計画の廃止又は見直しにより事業費ベースでの進捗は低いものの、計画どおり7浄水場のうち、6浄水場については完了又は事業に着手していることから評価できる。
		策定時(H25) 事業費(百万円) 47,021 執行額(百万円) 3,066 進捗率(%) 6.5	47,021 12,834 27.3	47,021 16,780 35.7	47,021 20,649 43.9	47,021 25,229 53.7	47,021 25,687 54.6	R2計画値 47,021 25,745 54.7	○ 同上 R2最終補正額C=458,186千円(霞ヶ浦オゾン、涸沼川施設診断) R2当初予算 C=516,582千円(")
8	建築物(取水ポンプ棟、送配水ポンプ棟など)の耐震補強の進捗状況(%) [事業費ベース]	S56以前に整備された建築建屋(常時無人)の耐震化の進捗状況(第2次耐震化計画)【上工水】	13.1	20.4	27.3	30.1	32.6	100	◎ 耐震補強計画の見直しや単価調査などによって工事費の低減を図り事業費ベースでの進捗は低いものの、R2に残る施設3棟の設計業務が完了したことによって、R3耐震化工事の着手が見込めることになり評価できる。
		策定時(H25) 棟数(全9棟) 0棟 事業費(百万円) 715 執行額(百万円) 2 進捗率(%) 0.2	1棟 715 94 13.1	3棟 715 146 20.4	4棟 715 195 27.3	6棟 715 215 30.1	6棟 715 233 32.6	R2計画値 6棟 715 275 38.4	◎ 同上 R2最終補正額C=18,205千円(鵜川耐震補強詳細設計) R2当初予算 C=60,716千円(")
9	管路の漏水事故発生率(件/100km)	管路更新や適切な機能保全工事による安定した水の供給【上工水】	1.2	1.1	0.9	0.5	1.3	0.5	○ 主に腐食やピンホールによる小規模なものであるが、老朽化が進む中で発生率を横ばい傾向に抑えたことは評価できる。引き続き、管路の更新を推進することにより漏水事故率の削減を図る。
		策定時(H25) 管路総延長(km) 1,330 漏水事故発生件数(件) 13 漏水事故発生率(件/100km) 1.0%	1,330 16 1.2	1,330 14 1.1	1,330 12 0.9	1,330 7 0.5	1,330 17 1.3	R2計画値 1,330 — —	○ 同上
10	管路耐震化率(%) [管路延長ベース]	管路耐震化の進捗状況	61.7	62.4	63.6	64.7	65.4	74.8 (74.4)	○ 整備費用の高騰や布設位置の見直しなどが発生しているが、概ね計画どおりの進捗であり評価できる。引き続き、計画に基づき耐震化を推進する。 ※目標値()書きは旧目標
		策定時(H25) 管路総延長(km) 773.9 整備済み(km) 436.6 進捗率(%) 56.4	773.9 477.4 61.7	773.9 483.1 62.4	773.9 491.9 63.6	773.9 500.4 64.7	773.9 506.4 65.4	R2計画値 773.9 528.3 68.3	○ 同上
11	事業間連絡管の整備状況(%) [事業費ベース]	広域水道事業間をつなぐ緊急連絡管の整備状況(第2次耐震化計画)	4.7	11.0	21.2	36.7	56.8	100 ※R5・L=33km	○ 整備費用の高騰や整備計画の見直しなどが発生しているが、概ね計画どおりの進捗であり評価できる。引き続き、計画に基づき事業を推進する。
		策定時(H25) 管路延長(km) 0 管路進捗率(%) 0.0 事業費(百万円) 5,205 執行額(百万円) 0 事業費進捗率(%) 0.0	1.1 3.3 5,205 245 4.7	2.9 8.8 5,205 570 11.0	6.1 18.5 5,205 1,104 21.2	11.5 34.8 5,205 1,911 36.7	17.8 53.9 5,205 2,956 56.8	R2計画値 17.8 53.9 5,205 3,085 59.3	○ 同上

【基本目標3】 利用者サービスと情報発信の充実

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
12	カビ臭の除去率を高めた水道水の供給（水質基準） 2-MIB、ジェオスミン 10ng/l以下	水道水質の向上	2-MIB値 100%	2-MIB値 100%	2-MIB値 100%	2-MIB値 99%	2-MIB値 98%	2-MIB、ジェオスミンともに 5ng/l以下を 100%達成	○ ※達成率は、5ng/lを超えなかった回数/検査回数 ○ 霞ヶ浦（西浦）における臭気原因物質（2-MIB）濃度が、5～6月にかけてこれまでになく高濃度となった影響で、若干目標値を上回る月が生じた。（水質基準は100%順守）
			ジェオスミン値 100%	ジェオスミン値 100%	ジェオスミン値 100%	ジェオスミン値 100%	ジェオスミン値 100%		
13	普及啓発事業等への参加者数（人）	水道水の普及啓発及びPR活動の状況	19,097	17,746	20,336	20,581	58	20,000	△ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、浄水場見学受入れやイベント開催・出展等ができなかった。市町村等と連携しながら、コロナ禍での普及啓発活動について引き続き検討していく。
14	企業局ホームページのアクセス数（月平均：件）	広報・情報発信の強化【上工水】	15,755	11,446	9,498	16,091	7,501	15,000	△ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、浄水場見学受入れやイベント開催・出展等によるPR活動ができず（外部との接触機会が減少し）、新たな興味関心の取り込みが困難となり、ホームページへのアクセスも減少した。令和3年度からホームページを刷新し、バーチャル見学などの試みも開始したため、今後は、アクセス数の改善（増加）が見込まれる。
15	水道水の安全性のPR回数（回）	水道水の安全性についての情報発信	25	25	26	23	12	25	△ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、浄水場見学受入れやイベント開催・出展等ができなかったが、ホームページ等を通して定期的に水質情報等を発信した。

【基本目標4】 環境保全への貢献

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
16	浄水場屋外灯のLED導入率（%）	省エネ機器の導入状況【上工水】	36.4	36.4	54.5	63.6	81.8	100	○ 当初の計画どおり導入しており、外灯LEDの導入率は増加している。今後も計画どおりに導入する見通しであり、令和4年度に100%（目標値）となる見込み。
17	中央監視室照明のLED導入率（%）	省エネ機器の導入状況【上工水】	27.3	27.3	90.9	100.0	100.0	100	◎ R1年度に目標達成
18	エネルギー消費原単位（kWh/千m ³ ）	水処理コスト・環境影響負荷の低減 ※H25：437	419 4.1%削減	415 5.0%削減	418 4.3%削減	414 5.3%削減	415 5.0%削減	H25比毎年 0.1%削減	◎ 利根川浄水場の供給水量増に伴うポンプ運転台数の増加、及び霞ヶ浦（西浦）における高濃度臭気原因物質（2-MIB）対応による機器運転台数の増加など、原単位悪化要因はあったものの目標を達成している。

2 工業用水道事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
1	総収益対総費用率 (%)	費用が収益によってどの程度賄われているかを示す	147.6	134.7	133.3	128.4	129.2	毎年 100以上	◎ 総収益が総費用を上回っており、収益で費用を賄えている状況にある。今後も引き続き純利益を確保できる見通しであるため、目標値は達成できると見込まれる。
2	営業収益対営業費用比率 (%)	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す	127.1	123.6	121.8	118.2	118.2	毎年 100以上	◎ 維持管理費や職員給与などの営業費用が、料金収入で賄えている状況にある。今後も同様の状況が続く見通しであるため、目標値は達成できると見込まれる。
3	借入金残高 (億円)	借入金残高 (負債) の状況	498	475	459	437	404	428	◎ 資金状況をみながら、新規借入金の抑制に努めていることから、年々減少している。引き続き、借入金の抑制に努めることにより、目標値は達成できると見込まれる。
4	契約水量 (万m ³ /日)	契約水量の増	100	101	102	102	102	109	○ 近年は横ばいで推移。企業における業態の変更や節水技術の進展により、大幅な契約水量増は見込みにくい状況。なお、県南西工水では、圏央道インターパークつくばみらいなど、新しい工業団地の造成により、一定の新規需要が見込まれる。

【基本目標2】 安定した水の供給

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
5	施設の改築・更新の進捗状況 (%) [事業費ベース] ※再掲	機能維持に関する建設改良投資の進捗状況 (施設更新事業) 【上工水】	27.3 (30.6)	35.7	43.9	53.7	54.6	100	○ 施設の適正配置等により新治・涸沼川浄水場の更新計画の廃止又は見直しにより事業費ベースでの進捗は低いものの、計画どおり7浄水場のうち、6浄水場については完了又は事業に着手していることから評価できる。
6	建築物 (取水ポンプ棟、送配水ポンプ棟など) の耐震補強の進捗状況 (%) [事業費ベース] ※再掲	S56以前に整備された建築建屋 (常時無人) の耐震化の進捗状況 (第2次耐震化計画) 【上工水】	13.1	20.4	27.3	30.1	32.6	100	◎ 耐震補強計画の見直しや単価調査などによって工事費の低減を図り事業費ベースでの進捗は低いものの、R2に残る施設3棟の設計業務が完了したことによって、R3耐震化工事の着手が見込めることになり評価できる。
7	管路の漏水事故発生率 (件/100km) ※再掲	管路更新や適切な機能保全工事による安定した水の供給【上工水】	1.2	1.1	0.9	0.5	1.3	0.5	○ 主に腐食やピンホールによる小規模なものであるが、老朽化が進む中で発生率を横ばい傾向に抑えたことは評価できる。引き続き、管路の更新を推進することにより漏水事故率の削減を図る。
8	管路耐震化率 (%) [管路延長ベース]	管路耐震化の進捗状況	39.4	39.9	41.8	43.7	43.9	59.7	○ 不断水工事や支障移設等の増加により整備費用の高騰や計画の見直しなどが生じ、目標値には至っていないものの耐震化の効果は発現できていることから評価できる。引き続き、計画に基づき耐震化を推進する。
		策定時 (H25) 管路総延長 (km) 563.8 整備済み (km) 193.8 進捗率 (%) 34.4	563.8 222.2 39.4	563.8 225.0 39.9	563.8 235.9 41.8	563.8 246.1 43.7	563.8 247.5 43.9	R2計画値 563.8 282.8 50.2	○ 同上

【基本目標3】 利用者サービスと情報発信の充実

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
9	低濁度水の供給 月平均濁度 15度以下	顧客満足度の向上	8.4度	8.2度	7.5度	8.5度	8.7度	10度以下	○ ※鹿島 I 期における工水配水の濁度の年間平均値を採用 費用対効果を念頭にほぼ均等な濁度管理に努めている。
10	企業局ホームページのアクセス数（月平均：件） ※再掲	広報・情報発信の強化【上工水】	15,755	11,446	9,498	16,091	7,501	15,000	△ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、浄水場見学受入れやイベント開催・出展等によるPR活動ができず（外部との接触機会が減少し）、新たな興味関心の取り込みが困難となり、ホームページへのアクセスも減少した。令和3年度からホームページを刷新し、バーチャル見学などの試みも開始したため、今後は、アクセス数の改善（増加）が見込まれる。

【基本目標4】 環境保全への貢献

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
11	浄水場屋外灯のLED導入率 (%) ※再掲	省エネ機器の導入状況【上工水】	36.4	36.4	54.5	63.6	81.8	100	○ 当初の計画どおり導入しており、外灯LEDの導入率は増加している。今後も計画どおりに導入する見通しであり、令和4年度に100%(目標値)となる見込み。
12	中央監視室照明のLED導入率 (%) ※再掲	省エネ機器の導入状況【上工水】	27.3	27.3	90.9	100.0	100.0	100	◎ R1年度に目標達成
13	エネルギー消費原単位 (kWh/千m ³)	水処理コスト・環境影響負荷の低減 ※H25：209	209 増減なし	211 1.0%増	211 1.0%増	209 増減なし	213 1.9%増	H25比毎年 0.1%削減	△ コロナ禍の影響で多くの企業が一時的な操業調整等を行った影響により、年間給水量がH25年度比0.3%減少、前年度比4.4%減少したことから原単位が悪化した。

3 地域振興事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (R6)	評価
1	入居者の確保（社） [格納庫事業]	賃貸料収入の確保	5	5	5	5	4	5	○ 企業局水道用水供給事業の災害備蓄用ペットボトル水を阿見浄水場等に移転したことによる減だが、空いた区画には短期賃貸でつくば航空が入居したため、空き区画はない状況。なお、令和3年度末をもって事業終了。
2	借入金残高（億円） [格納庫事業]	借入金残高（負債）の状況	1	1	1	0	0	(R2) 0	◎ 令和元年度完済
3	阿見東部工業団地立地率 （%）[土地造成事業]	経営の安定	93	100	100	100	100	100	◎ 完了（18社立地）
4	江戸崎工業団地立地率 （%）[土地造成事業]	経営の安定	91	100	100	100	100	100	◎ 完了（7社立地） ※未造成区画を除く
5	つくば明野北部工業団地 立地率（%） [土地造成事業]	経営の安定	100	100	100	100	100	100	◎ 完了（1社立地）